

おち あい とりであと
落合砦跡 登城ルート



『武田軍』戦国境界探訪エピソード

武田軍の拠点であった場所である。

【城の紹介】

市街地を一望する千畳敷台地北東の尾根に立地し、南北に並ぶ二つの頂部にそれぞれ曲輪を設けている。南側の曲輪が高い位置にあり、主郭と考えられる。頂部にある東西 45m、南北 30m の平坦面を中心として、尾根筋は階段状に削平され、切岸と小曲輪が設けられている。北側の曲輪は、東西 30m、南北 20m の平坦面があるが、展望台や取付道路、アンテナ等で改変が進んでおり、現状では城郭遺構は確認できない。また、二つの曲輪を結ぶ尾根や三の曲輪とも言われる光秀産湯の井戸周辺も同様である。

●山城までのアクセス

GoogleMAP で「土岐明智城 多羅砦跡」を目指すとうわかりやすいです。

●駐車スペース

「千畳敷公園前の駐車場」をご利用ください。

●スタンプ台までの進み方

「土岐明智城（多羅砦）」案内看板で主郭方向に従って進んでください。
 登り口からの所要時間目安 10 分。

すわがねとりであと 諏訪ヶ根砦 登城ルート



『織田信長』 戦国境界探訪エピソード

永禄十年、斎藤竜興の居城稲葉山城と井ノ口を手に入れた。
その後、尾張政秀寺の沢彦和尚の進言により、井ノ口を岐阜と改称する。
稲葉山城合戦に勝利した信長は美濃を完全に征服したと言われている。

【城の紹介】

鶴岡連山の最高峰で明知城や一夜城を一望することから、織田軍の拠点として比高160mの諏訪ヶ根に築かれた砦。
明知城の北西約3Kmの位置。山頂に諏訪大明神を祀ることから、諏訪ヶ根と呼ばれており、100mほどの広さの頂部が切岸と堀切で囲まれている。
この頂部は自然地形に近く、なだらかに傾斜している。

●山城までのアクセス

GoogleMAPで「すわがね（鶴岡山）」を目指すとうわりやすいです。
なお、アクセス路となる道沿いは、通信会社によっては電波が通じない可能性があります。

●駐車スペース

すわがね山頂案内看板周辺の交通を妨げないスペースをご利用ください。

●スタンプ台までの進み方

「すわがね山頂」の案内看板に従って進んでください。※分岐がいくつかあり、往路と比べて帰路が迷いやすいです。帰り道を確認しながら進んで下さい。登り口からの所要時間目安10分。

『諏訪ヶ根砦 × 光秀の話』 戦国境界探訪エピソード

東美濃に侵略した武田勝頼が明知城を包囲したという知らせが織田信長に届くと、翌月信長は恵那郡明知城救援の先陣に尾張と美濃両国の軍勢を出動させています。この尾張と美濃の軍勢が陣取った砦が、鶴岡山の諏訪ヶ根砦であります。この尾張と美濃の軍勢が陣取った砦が、鶴岡山の諏訪ヶ根砦である。

あけちじょうあと 明知城跡 登城ルート



【城の紹介】

城は、山頂に並ぶ東西二つの曲輪と通称「出丸」を中心として、周囲の尾根の全域に曲輪を配置している。登城路は、西側山麓の陣屋から主郭まで明らかな導線があり、最終段階の大手道であると考えられる。明知城の一番の見どころは、三つの主要な曲輪を囲う大規模な横堀・堀切とこれと連動する畝状堅堀群であろう。横堀と堅堀を組み合わせて防御する事例は、この地域でもいくつか見られるが、このような多数の堅堀と横堀とを組み合わせて用いている事例は他に見られない。主郭の南に位置する「出丸」も、この城の特長と考える上で重要な曲輪である。一辺約30mの方形で主郭をしのぐ広さを持ち、三方は急峻な切岸で防御されている。また、曲輪内部には「柱石」と呼ばれる、中央に直径24cmほどの穴が開いている長辺120cmほどの石があり、この曲輪が特別な機能を有していたことを窺い知ることができる。山麓の陣屋跡は近世遠山氏の陣屋であり、土塁や馬場が良好に残っていたり、代官村山氏屋敷等の建物も現存していたりと、近世旗本陣屋の類例として大変貴重である。

●山城までのアクセス

GoogleMAPで「明知城跡（白鷹城跡）」を目指すとわかりやすいです。

●駐車スペース

からめて
「明知城搦手駐車場」をご利用ください。

●スタンプ台までの進み方

案内看板で本丸方向に従って進んでください。登り口からの所要時間目安10分。

『遠山一行』 戦国境界探訪エピソード

城主の遠山景行は、永禄年間には武田氏に従っていた徴証があるが、元亀三年十二月の上村合戦では織田方の主将として戦い、戦死してしまう。その後、家督は孫の一行が継承する。

じょうやまとりであと 城山砦跡 登城ルート



『武田軍』 戦国境界探訪エピソード

典型的な武田の砦の特徴を持つ、武田領と岩村城をつなぐことを目的として、武田軍によって築城もしくは改修を受けた可能性が高い。

【城の紹介】

城山と呼ばれる小高い山の三頂にあり、山麓は北から西に上村川が流れる。近世の秋葉道と中馬道は対岸の川沿いを通り、北西の直下に二つの道の追分がある。西側の城郭は東西50m、南北30mで北西は二重堀切で画し、南側は帯曲輪がめぐり、東側の城郭とは幅7mの堀切で画されており、細い土橋で連絡する。その東側の城郭の南東端には虎口があり、スロープとなった通路で城外と連絡する。登城路は墓地となっていてはっきりしないが、入口を限定している。両城郭は馬出と評価できる。この城は、規模は小さいが馬出や横堀、堅堀、切岸を組み合わせた技巧的な縄張が特筆される。

●山城までのアクセス

GoogleMAPで「漆原城跡（城山砦跡）」を目指すとうわかりやすいです。

●駐車スペース

三作集会所駐車場をご利用ください。登り口付近はトンネル出入口となりますので、絶対に駐車しないでください。

●スタンプ台までの進み方

登り口看板やその先の看板にも「城山砦」と書いてありますが、漆原城と同じです。案内看板に従って進んで下さい。「鹿除けゲート」は、通った後に閉じる様にして下さい。登り口からの所要時間目安は15分です。

ぜん だ とりであと
前田砦跡 登城ルート



『武田方』 戦国境界探訪エピソード

『丹羽氏聞書』によると、「原弾正と申仁被居候、月瀬村ニ原党之元祖也」とあることから、下条領である土豪である原氏の所有物であったと考えられる。織田・武田軍の抗争が非常に激しい地域であり、最初に築城したのは、遠山氏（もしくは織田氏）であると言われている。

【城の紹介】

上村川と飯田洞川の合流点の丘陵先端部に立地する。南麓を中馬道が通り、近世の上村宿は飯田洞川の対岸にある。城は東西 200m 以上に及び、背後に堀切（両端が曲輪に沿って回り込み横堀となり、南の先端が堅堀）で画し、堀切の上には櫓台がある。内部は2つの堀切によって3つの曲輪に区画されており、いずれの曲輪も複数の平坦地から構成されている。特筆されるのは2つの堀切である。どちらも幅約20m、深さ約8mの箱堀で、両端は堅堀となっており、南北の斜面に落ちている。このような規模の大きな堀切・堅堀は東美濃では他に類例がなく、城そのものも有数の規模である。

●山城までのアクセス

GoogleMAP で「前田砦跡」を目指すとうわかりやすいです。なお、上り口は八幡神社の鳥居となります。

●駐車スペース

「JA ひがしみの上村支店」付近の駐車スペースをご利用ください。

●スタンプ台までの進み方

鳥居をくぐって進む。しばらく進むと新しい矢印看板があります。矢印に従ってしばらく進んでください。その後、丘に登る矢印があります。登り口からの所要時間目安 15 分。
※手書き看板「前田砦」方向からでも進めますが、大きな丘を一つ越える道筋となります。

おお だいら じょう あと
大平城跡 登城ルート



●山城までのアクセス

GoogleMAPで「大平城跡」を目指すとうわかりやすいです。

●駐車スペース

登り口看板付近の交通を妨げないスペースを利用ください。

●スタンプ台までの進み方

案内看板に従って進んでください。登り口からの所要時間目安は15分です。

『遠山経景』 戦国境界探訪エピソード

遠山串原氏の居城であり、串原城とも呼ばれている。天正2年(1574)、武田勢の攻撃によって明知城と共に落城した。串原氏は室町幕府奉公衆の系譜を引く人物であり、恵那郡中部に及ぶ勢力を有した有力国衆であった。

【城の紹介】

主郭は東西40m、南北10mの方形で、西側に櫓台上の高まりがある。石碑が建っているが、城跡とは関係ないものである。南北は急峻な斜面となっている。南側には細長い平坦面が見られ、切岸であることが分かる。主郭の死に側には、幅15m、長さ60mほどの細長い曲輪があり、これに続く北側と西側の尾根は堀切で画されている。このうち、北側の堀切と対岸には、方20mの曲輪があり「雪隠屋敷」と呼ばれている。このほか、城跡の周囲には、「殿井戸」「人きり場」「勝負沢」などの地名が残されている。

―あとがき―

時は令和七年（2025年）。

織田信長と武田勝頼の戦いから、すでに450余年の時が流れました。

本スタンプラリーで訪れていたいただいた山城は、いずれも戦国時代の緊張の只中に置かれた場所です。恵南地域には今回登場した山城のほかにも数十の中世城郭があり、森の中に、尾根の上に、谷を見下ろす崖に、今なお往時の姿を留めています。このような地域は全国的にも希少と思われまます。

中世の山城跡がこれほど迄に残っているのは、開発の手が入らなかった事もありますが、地元の人々が歴史の重みを知り、草刈りや道づくりなどを通じ、大切に維持してこられた側面も大きいです。

最後に。

中世の山城群も、今となっては、レジャーや観光のかたちで楽しむことができるようになりましたが、もともとは多くの人たちが命をかけて戦い、守り、散っていった「本物の戦場」であることも、どうか忘れないでください。

この地を歩き、空気を感じ、かつてここで一所懸命に生きた人びとの存在に思いをさせていただけたら―――それこそが、先人たちへの何よりの敬意であり、この地を未来へつなぐ力になると信じています。

今後とも、モラルを守って恵南の山城群をお楽しみ頂けると幸いです。

今回のご参加、誠にありがとうございました！

恵南地区文化遺産活用実行委員会

【参考、引用文献】

三宅唯美・中井均編（2010）『岐阜の山城ベスト50を歩く』サンライズ出版
中井均・内堀信雄編（2019）『東海の名城を歩く 岐阜編』吉川弘文館
小林保一（2008）『わたしの東農戦国史』新人物往來者

大井武並神社旧記

『丹羽氏聞書』

恵那市観光交流課『戦国街道 歴史の巻 山城図鑑』